



日本化薬グループの

# CSR レポート 2013

ダイジェスト

世界的すきま発想。

 日本化薬

# EDITORIAL POLICY

- 本レポートでは、日本化薬グループのCSR情報のダイジェストとして、CSRに対する考え方や2012年度の主なCSR活動取り組み状況について要点を絞って報告しています。
- 2012年8月30日株主総会にて決算期を5月31日から3月31日に変更していますので、報告活動期間は2012年6月1日から2013年3月31日までの10ヵ月間です。また、環境報告対象期間は、2012年4月1日から2013年3月31日までの12ヵ月間です。
- 2012年度のCSRアクションプランの結果報告に関して本レポートでは代表的な項目について結果と事例を紹介しています。また、詳細はウェブサイト「CSR情報」に掲載しています。3ヵ年中期事業計画 **Challenge 100A!** (2013~2015年度)と連動させた中期CSRアクションプランを策定し掲載しています。また、本アクションプランはISO26000との対応表を掲載しています。(P06-07)

## 報告対象期間

2012年度（2012年6月～2013年3月）の取り組みを中心に、2013年度の展開や方針についても一部報告しています。

## 報告対象組織

日本化薬および国内・海外のグループ会社の取り組みを含みます。ただし、環境面は日本化薬のみです。

## 目次

# CONTENTS

- 02 ..... 編集方針
- 03 ..... トップメッセージ
- 04 ..... 特集：明日につなげる運動発表大会
- 06 ..... 中期CSRアクションプラン
- 08 ..... 基盤となるCSR活動
  - CSR経営の考え方
  - コーポレート・ガバナンス
- 10 ..... 経済的責任を果たすCSR活動
  - 豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在の製品および未来の技術や製品
  - 日本化薬グループの事業
- 14 ..... 社会的責任を果たすCSR活動
  - お客様への取り組み
  - お取引先・投資家への取り組み
  - 従業員への取り組み
  - 社会への取り組み
- 18 ..... 環境責任を果たすCSR活動
  - 環境安全衛生品質マネジメント
  - 化学物質の管理
  - エネルギー・マテリアル・バランス
- 21 ..... グループ会社の取り組み
- 22 ..... 冊子とウェブサイトの対照表
- 23 ..... グループ概要

ウェブサイトもご覧ください

## WEBSITE

本報告書の内容および各種環境データなどの詳細情報はウェブサイト上に掲載しています。また、最新の関連ニュースも随時更新しています。

### CSR情報へのアクセス方法

日本化薬のウェブサイトへアクセス



トップページの「CSR情報」をクリック



<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/>

冊子とウェブサイトの関係を一覧にした冊子とウェブサイトの対照表(P22)を掲載しています。



表紙写真について

## PHOTO

タイトル：大きく育てと期待を込めて

撮影者：東京事業所 下平光良

撮影場所：群馬県

撮影者コメント：今年も無事オオタカのヒナが孵りました。元気な3兄弟です。生後10日位は羽の色は産毛で真っ白、目はブルーでとてもかわいいです。





トップメッセージ

# TOP MESSAGE

創立100周年に向けた中期事業計画を  
着実に遂行し、**KAYAKU spirit** を実践することが、  
日本化薬グループのCSR経営です。

日本化薬グループは、**KAYAKU spirit**「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を企業ビジョンと位置づけています。当社グループは本年度より2016年の創立100周年を目指した2015年度までの3カ年の中期事業計画 **Challenge 100A!** をスタートさせました。本中期事業計画においては、グループ各社の一人ひとりが、中期CSRアクションプランに基づいて **KAYAKU spirit** の実現を目指した企業活動を行い、これまでに培ったモノづくりの伝統を受け継ぎながら高い目標に挑戦し続けることで、すべてのステークホルダーの皆様の信頼にお応えするCSR経営を推進してまいります。また本年より、コーポレートイメージを **スマートケミカルズカンパニー** といたしました。これまでに培った先端の化学技術を利用した特長ある

機能を持ったスマートな製品を、環境・安全にも配慮しながら社会に提供し続けるスマートな企業経営を目指してまいります。

「日本化薬グループのCSRレポート2013」には当社グループの従業員が **KAYAKU spirit** を体現し、CSR経営を実践する上での課題を設定し、これらの経営課題を解決するための取り組みを掲載しております。ダイジェスト版としての本レポートと詳細版として別途作成しているウェブサイト을合わせてご覧いただき、当社グループのCSR活動にご理解となお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

萬代晃

SPECIAL CONTENTS

# 特集：明日につなげる運動発表大会



日本化薬グループは、「明日につなげる運動」という全社発表大会を毎年開催しており、2013年で第54回目を迎えました。

1963年にデミング賞<sup>※1</sup>を受賞し、受賞後も近代化へ向けた取り組みとして実施していたQC (Quality Control) 活動に関する発表の場として1966年から「社内QCサークル大会」が始まりました。

その後、名称を変更し1995年から「明日につなげる運動発表大会」となりました。

さらに、2005年の47回目からは海外のグループ会社も参加し、日本化薬グループ全体の発表大会を実施しています。発表内容は、業務改善・コストダウン・5S<sup>※2</sup>活動・次世代育成・省エネルギー活動など「行動」<sup>※3</sup>をする上で必須となる取り組み等をテーマとして掲げています。

この発表大会を通じて、日本化薬グループの社員の問題発見力・解決力・創造力を高め、職場の課題解決、さらには日本化薬グループ全体のコミュニケーションの場に繋がるように努めています。



海外からの参加者も含め活発な討議が行われました



Kayaku Safety Systems de Mexico社(メキシコ)の発表

※1【デミング賞】1951年、日本科学技術連盟が創設。アメリカの品質管理(QC=Quality Control)の権威であるデミング博士の日本に対する友情と品質管理に対する業績を記念し、統計的品質管理を実施しその年度において顕著な業績向上が認められ、将来に向かって品質管理の進歩が予想される企業に与えられる賞。

※2【5S】整理・整頓・清掃・清潔・躰(しつけ)の5項目をローマ字表記した場合の頭文字から由来。

※3【行動】常にコスト意識を持ち、付加価値を生み出すための活動。日本化薬グループ独自の言葉。

# 第54回 明日につなげる運動発表大会

**大会スローガン** 「成長点を開花させ100周年に向けて躍進しよう」

**大会コンセプト** 「KAYAKU spirit を根幹に、洗練した仕事を積み重ね 自信と誇りを充填し 次への成果を取り出そう」

第54回明日につなげる運動発表大会は、2013年2月21日・22日に日本化薬の医薬品工場のある群馬県高崎市を会場とし、海外からは中国・アメリカ・チェコ・メキシコの4カ国が加わり総勢250名を超える参加者のもと盛大に行われました。

今回の大会スローガンは「成長点を開花させ100周年に向け躍進しよう」、大会コンセプトは「KAYAKU spirit を根幹に、洗練した仕事を積み重ね 自信と誇りを充填し 次への成果を取り出そう」とし、2016年の創立100周年を念頭におき、高崎工場らしく医薬品の製造現場ならではの言葉を踏まえたものになりました。



この大会は、職場単位での成長の原動力である工夫や改善はもとより、組織横断型の活動なども幅広く取り上げ、互いに技術を高めるための交流の場として行われてきました。今回は、特に海外事業場の発表にとっても勢いを感じ、活動を通して、職場が強くなっていると思いました。国内事業場においては省エネ、コスト改善、次世代育成などの喫緊の課題に取り組んだテーマが多く、日本化薬グループ全体での情報共有化ならびに中期事業計画 **Challenge 100A!** 達成への意思確認ができた「場」となりました。



大会実行委員長  
高崎工場 製剤製造部  
関口 博一

## 受賞 2012年度 第54回 明日につなげる運動発表大会 受賞紹介

### <優秀賞>

テーマ 「GTMS ネイキッドスクイブ在庫削減」

事業場 Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V.  
(自動車用安全部品の生産工場)

内容 在庫が急激に増えていたネイキッドスクイブ(点火装置)の在庫削減のため、根本原因の特定を行い、40%弱の在庫削減を達成しました。

テーマ 「生物処理の有効利用による WAC 排水処理能力の向上」

事業場 無錫先進化学工業有限公司 (WAC) (染料工場)

内容 WACのある無錫市では排水中のCOD<sup>※</sup>値等さまざまな排出規制があるため、排水処理方法の大幅な改良検討を行いCOD<sup>※</sup>除去率の向上、コスト削減に努めました。

※ [COD] P20 参照。

### <特別賞>

テーマ 「モデュラン工場の3無改善」

事業場 日本化薬フードテクノ株式会社 (食品関連製品の製造販売)

内容 脱酸素剤は低価格での販売勝負となっており、対抗するためには「品質の良い安価な製品」が必須となります。ムリ・ムダ・ムラの3Mを解消することでコスト削減に繋がりました。

テーマ 「省エネルギー活動と実績」

事業場 姫路工場 (自動車用安全部品の生産工場)

内容 生産数量増加に伴い年々エネルギー消費量が増加し続ける状況の中、省エネ活動の一層の推進により、難しいとされる絶対値でのエネルギー削減の達成に努めました。

「明日につなげる運動発表大会」は、日本化薬グループ社員の情報交換・意思の疎通・目的意識や問題点の認識により、新たな融合が生まれる有意義な「場」となっています。日本化薬グループの独自技術を進化させ、その成果をグループの成長および社会に役立て今後も大会を通じ日本化薬グループが一丸となり、新たな技術融合が生まれるよう継続していきます。

# MID-TERM CSR ACTION PLAN

## 中期CSRアクションプラン

分類	No.	Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン	2013年度
基盤	1	従業員のCSRとコンプライアンスに対する意識を向上させる	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修
	2	有事発生時においても事業継続性を確保する	防災対応を含めたBCPマニュアルの整備と訓練
社会的責任	3	化学物質に関する規制を順守する	化学物質規制に関する社内教育プログラムの充実、SDS*開示へ適切な対応
	4	がんとがん関連分野における研究・開発・製品情報提供により社会に貢献し続ける	血管塞栓用マイクロスフェアの上市と抗がん薬内包高分子ミセルの開発推進
	5	従業員の火薬類取り扱いに関するスキル・知識の習熟を徹底する	火薬安全維持推進チームによる階層別教育プログラムの実践
	6	農業安全使用のための現地指導を継続実施する	販売窓口への訪問(販売員一人あたり150回/年)の実施
	7	サプライヤーと連携したCSR調達を推進する	CSR調達基準の策定
	8	重大事故災害による環境影響や労働災害を未然に防止する	重大事故災害、休業災害、無傷害事故:0件 不休業災害度数率1(5件)以下
	9	顧客苦情・品質工程異常を低減する	重大顧客クレーム (損失金額1,000万円以上):0件
	10	地域社会とのコミュニケーションを行う	「あすなるの家」運営を通じ、難病とたたかう子どもの家族をサポート
	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信を行う	ステークホルダーとのコミュニケーション推進、わかりやすいウェブサイトづくり
	12	多様な人材を活用・育成する	ダイバーシティの拡大~障害者雇用率の向上、女性管理職の登用促進、高齢者の能力活用
	13	従業員の安全と健康に配慮し、ワークライフバランスのとれた労働環境を提供する	健康的な職場づくり~メンタルヘルス研修:3ヵ年計画受講率100%、健康診断:受診率100%
	14	人権とプライバシーを守る	通報・相談窓口の適切な運用、人権・パワーハラスメント教育の実施
環境責任	15	グリーン調達比率の向上を図る	間接材購買システムの推進によるグリーン調達実施状況の把握
	16	環境へ配慮し、中期環境目標を達成する	化学物質排出量の削減:2020年度までの中期環境目標達成に向けた取り組み
	17	廃水処理技術を向上させ、環境規制に対応する	海外グループ会社を含めた新規廃水処理技術の開発検討~有色廃水の高度処理による新規脱色技術の検討
	18	より一層のエネルギー低消費型企業を目指す	各事業場省エネルギーアクションプランの策定
経済的責任	19	持続可能な企業グループとして安定的な収益を確保する	グループ経営の充実~本部サポート体制の強化による各グループ会社の活性化
	20	環境・省エネルギーに貢献する製品を上市する	高性能熱伝導接着シート・光学制御フィルム新製品の上市
	21	経済負担を軽減する高品質な医薬品を提供する	バイオンミラーの早期上市とジェネリック抗がん薬の遅滞ない上市
	22	独自技術を応用した安価自動車用安全デバイスをグローバルに拡大し、人命保護に貢献する	海外拠点の新規立ち上げと生産設備増強
	23	ものづくり技術の継承により生産工場を維持継続する	ものづくりに関連した全社発表会・社内教育・情報共有の推進
	24	持続的に研究テーマを創生・遂行する	持続的に創生・遂行できる仕組みの構築

日本化薬グループでは、2013年4月より、2016年の創立100周年を目指した新たな3ヵ年中期事業計画 **Challenge 100A!** (Challenge toward our 100th anniversary)を開始しました。これに伴い、**Challenge 100A!** 期間中に取り組む中期 CSR アクションプランを設定しました。本中期 CSR アクションプランを全役員・従業員に徹底し、CSR 経営への意識を高めるとともに、全員一体となった取り組みを進めてまいります。

CSRアクションプラン	ISO26000との対応						
	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な事業慣行	消費者課題	コミュニティ 参画および発展
	◎				○		
ITシステムの被災リスク低減と迅速な復旧環境の確保(2014年度完了)	◎				○		
				◎	○		
医薬品情報センターのさらなる充実による安全管理、品質向上					○	◎	
						◎	
				○		◎	
					◎		
医薬MR業務上および通勤途上自動車事故率：4%以下	○		○	◎			
重大品質工程異常 (損失金額1,000万円以上)：0件					○	◎	
ピンクリボン活動・工場祭・地域との懇談会・ 地域清掃活動・公開講座の実施							◎
決算開示の早期化の推進、 IFRS(国際財務報告基準)への対応準備	◎					○	
グローバル化に対応する取り組み～グローバルマネ ジメント人材の育成、外国人の雇用に伴う教育 体制の強化、支援体制・各種制度の整備・拡充		○	◎				
ワークライフバランスの向上～有給休暇取得率向上、次世代 育成支援対策促進、長時間労働者面談受診率:100%		○	◎				
		◎	○				
				◎	○		
				◎			
高濃度窒素含有廃水の新規脱窒方法の検討 新規有機物分解システムの探索				◎			
				◎			
効率的な資本の運用～バランスシート適正化・ 安価購買	◎				○		
				○		◎	
						◎	
						◎	
	○		◎				
	○					◎	

※【SDS】Safety Data Sheet (化学物質安全性データシート)

# 基盤となるCSR活動

## CSR経営の考え方

日本化薬グループは、KAYAKU spirit  
「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により  
社会に提供し続けること」を実現することにより  
すべてのステークホルダーの信頼に応える  
CSR経営を行ってまいります。

### アクションプラン

- ・企業ビジョン、CSRを啓発する

### 2012年度の目標

- ・教育研修の継続実施
- ・CSR関連プロジェクトの組織横断的運営
- ・会議・社内誌などによる啓発活動の継続

評価



## KAYAKU spirit とCSR経営

KAYAKU spirit 「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グループの企業ビジョンです。KAYAKU spirit は、50年以上前に制定された社是をもとにしており、私たちがずっと持ち続けているCSR経営の基盤となる考え方です。当社グループは現在9カ国で事業を営んでおり、各人の仕事の内容・働く国や文化なども異なります。このような中、全従業員の共通の考え方として KAYAKU spirit を位置付け、一致団結して目標に向かうよう努めています。

あるべき姿  
||  
企業ビジョン

### 企業活動

事業計画・事業活動  
アクションプラン  
社会・地域貢献活動  
環境負荷軽減活動

### 行動規範

心がけ、行動方針

## KAYAKU spirit

最良の製品を  
不断の進歩と良心の結合により  
社会に提供し続けること

## CSR経営

KAYAKU spirit を実現させるための  
企業活動

## 日本化薬グループ行動憲章・行動基準 グループ行動指針

### 行動指針

- ① KAYAKU spirit を常に意識しよう
- ② PDCAをしっかりとスピーディに回そう
- ③ 全員D席で行こう

### ■ KAYAKU spirit と CSR 経営

企業ビジョンである KAYAKU spirit を実現させるための企業活動としてCSR経営を位置付けています。

## CSR経営実現のための取り組み

2010年6月、すべての事業活動をCSRの観点から判断する目的で、CSR経営委員会を設置しました。本委員会は社長を委員長とし、各事業を統括するすべての役付執行役員をメンバーとして

しています。また、CSR経営を日本化薬グループの経営方針と位置付け、経営トップ



INDET SAFETY SYSTEMS社(チェコ)における企業ビジョンボード

から継続的な浸透を行っています。

さらに、CSR推進体制を強化するために、2009年より組織横断的な社内プロジェクトを結成し、全社での取り組みを進めています。企業ビジョンを浸透し、CSRの意識を全社員に定着させるために、年間数十回のCSR研修・コンプライアンス研修を実施しています。また、KAYAKU spirit やCSR経営を解説した冊子や携帯用のカードは、6カ国語に翻訳し、日本化薬グループ全体で共有しています。2012年度には、KAYAKU spirit グループ行動指針を示した掲示ボードについても各国語版を作成し、全事業場に掲示する取り組みも行いました。

CSR研修回数

# 14回

## 中期CSRアクションプランとコーポレートイメージの制定

中期事業計画 **Challenge 100A!** 期間中に取り組む中期CSRアクションプラン(P6, P7に掲載)を策定し、CSR経営と中期事業計画の関係を明確にしました。また、コーポレートイメージ

として **スマートケミカルズカンパニー** を新たに設定しました。環境・安全に配慮したスマートな製品の開発・企業経営を目指してまいります。

## コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンス体制を整備し、コンプライアンスを企業活動における最優先事項と位置付けています。

### アクションプラン

・コンプライアンスを啓発する

### 2012年度の目標

- ・全従業員を対象にしたコンプライアンス研修の実施
- ・コンプライアンス・アンケートの実施

評価



## コーポレート・ガバナンス

### ■コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

日本化薬グループは、社会から信頼される企業であるために、株主・投資家の皆さまへのタイムリーかつ公正な情報開示、チェック機能強化による経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンスを整備しています。

### ■コーポレート・ガバナンス体制

日本化薬グループは、取締役会の合議制による意思決定と監査役制度によるコーポレート・ガバナンスが経営機能を有効に発揮できるシステムであると判断しています。

2005年8月から、事業環境の変化に迅速に対応し、柔軟な業務執行を行うために「執行役員制度」を導入し、経営の

「意思決定・監督機能」と「業務執行機能」の役割を明確に分離し、それぞれの機能を強化して適切な意思決定と迅速な業務執行を行っています。また、経営責任および執行責任の明確化のため、取締役と執行役員の任期を1年としています。

さらに、2013年6月から社外取締役を導入しました。これにより、経営の透明性を高めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化を図っています。

当社は監査役会設置会社で、社外監査役3名を含む5名の体制です。監査役が取締役会等の各種社内重要会議に出席する他、内部監査部門との情報交換等を通じ、独立した立場から取締役の職務執行の監視、監督を行っています。

## コンプライアンスの浸透と徹底

コンプライアンス研修

40  
カ所  
(国内事業場)

日本化薬グループは、コンプライアンスを企業活動における最優先課題と位置付け、2011年6月に「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を制定しました。コンプライアンスを尊重する企業風土を醸成するために、各事業場、グループ会社(国内)に倫理責任者と担当者置き、倫理委員会と連携を取りながらコンプライアンス推進活動を実践し、着実な運用を図っています。

コンプライアンスを実践するために、毎年教育研修を行っており、2012年度は新入社員、新任管理職を対象とした研修も含め、国内事業場40カ所で教育研修を行いました。

また、毎年10月を「コンプライアンス推進月間」とし、事業

場単位での教育研修と全従業員対象の「コンプライアンス・アンケート」を実施しています。2012年度は日本化薬グループ会社の役員・社員3,648名から回答を得ました。アンケート結果から順守状況や推進活動に関する課題の抽出を行い、これをもとに次年度の行動計画を策定し、コンプライアンス意識向上のためのPDCAサイクルを回しています。

また、従業員を対象にした「通報・相談窓口」を社内と社外に設置し、法令や社内規則、行動基準に反する事象を、未然に防止、早期に是正することに努めています。



# 経済的責任を果たすCSR活動

豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在の製品および未来の技術や製品

日本化薬グループは“世界的すきま発想。”でニッチでも突出した技術で付加価値の高い製品を開発し、世界になくなくてはならない企業を目指しています。

**デジタルカメラ**  
微細カラーフィルター用カラーレジスト  
ブラックマトリックス用樹脂

**有機半導体**  
フレキシブルディスプレイ  
ウェアラブルパソコン

**印刷材料**  
感熱顔色剤  
染料

**偏光サングラス**  
偏光素膜

**スマートフォン、タブレット**  
カラーレジスト樹脂、カラーフィルター用色素  
半導体封止材用エポキシ樹脂  
フラッシュLED封止用ハイブリッド樹脂  
液晶シール材、コート用樹脂

**プロジェクター**  
偏光フィルム

**色素増感太陽電池**  
カラフルでシースルーな太陽電池

**菓子**  
品質保持剤

**洋服**  
染料

**食品**  
健康食品原料

**衛生用品**  
ウエットクロス

**カーテンエアバッグ**  
インフレーター

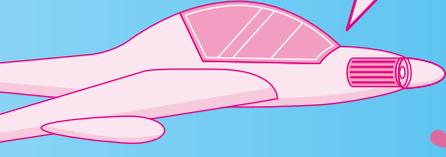
**バイオマス化学品**  
木から生まれたプラスチック

**ダンボール**  
染料

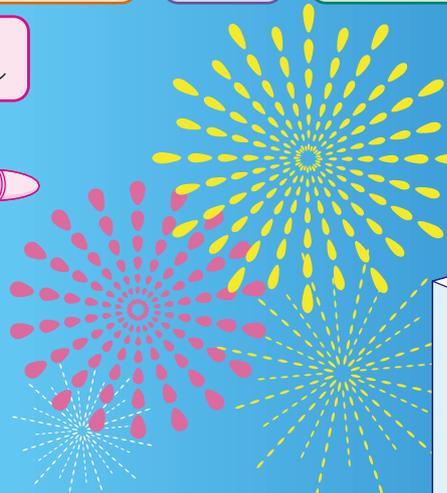
**除菌スプレー**  
エタノール製剤

**農業**  
殺虫剤、除草剤、  
土壌くん蒸剤、  
生物農薬

熱伝導性耐熱絶縁材料  
電動航空機の電動モーターコイル



排水処理技術  
水をきれいにし  
自然にかえす技術



花火  
打上げ黒色火薬  
火工品

介護事業  
福祉用品、  
デイサービス



医療  
医薬品  
医療機器  
原薬  
診断薬



エネルギー変換材料  
健康診断センサー  
熱電変換素子

抗がん薬内包高分子ミセル

カレンダー  
蛍光染料

巨大水槽  
透明樹脂の原料である  
メタクリル酸製造の  
ための触媒



おむつ  
高吸水性樹脂の原料  
であるアクリル酸製造の  
ための触媒

トイレトペーパー  
染料



車載用シート  
染料  
シートベルト  
染料

シートベルト  
マイクロガスジェネレータ

ポップアップエンジンフード  
マイクロガスジェネレータ



ディスプレイ  
半導体封止材用エポキシ樹脂  
液晶シール材  
液晶パネルスペーサー用樹脂  
カラーレジスト用樹脂  
コート用樹脂  
プリント基板用樹脂  
機能性フィルム  
カラーフィルター用色素  
赤外線吸収剤

車載用ディスプレイ  
液晶ディスプレイ用フィルム  
液晶シール材  
エンジン  
エンジンモーター制御  
半導体用エポキシ樹脂  
プリント基板用樹脂

ふせん  
紙用染料  
粘着剤の原料であるアクリル  
酸製造のための触媒

プリント用  
普通紙  
蛍光染料



エアバッグ  
インフレーター  
サイドエアバッグ  
インフレーター

アクリル塗料、  
ライトカバー  
塗料・部品の原料である  
アクリル酸製造のための  
触媒、樹脂接着剤



光ディスク  
接着剤  
コート材

プリンター  
インクジェットプリンター用色素

# 日本化薬グループの事業

日本化薬グループの主となる4つの事業をクローズアップし、社会に貢献する技術を活かした開発製品などを紹介します。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/business/>



## 機能化学品事業

TOPIC

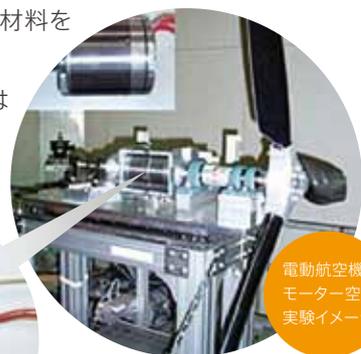
### 熱伝導性耐熱絶縁材料を用いた 電動航空機用モーターコイルの開発

JAXAでは、将来の航空機に求められる有望な航空技術のひとつとして、電動航空機の研究開発を進めてきました。そのために必要なのが、高効率な小型モーターでした。しかしながら、これまでのモーターでは離陸時の最大出力を引き出すための温度上昇からコイルの焼損を防ぐことは困難であり、この問題を解決するためには、モーターシステムの大型化による出力制限をしたり、水冷システムを導入するなど、小型化とはほど遠い対策を取らねばなりません。小型で高性能な電動航空機用モーター実現のため、モーターコイルへの熱ダメージを与えない塗材を求めていました。

一方、日本化薬では、特殊反応性ポリアミド樹脂をベースに用いることにより、250℃の高温まで使用でき、高い熱伝導性と高い接着性を有す

る熱伝導性耐熱絶縁材料を開発していました。

日本化薬とJAXAは2012年度より共同研究を開始し、この度、



電動航空機  
モーター空洞  
実験イメージ

最大出力の動作時間が従来の2倍以上で、最大効率も約1%向上させたモーターコイルの開発に成功しました。

この技術は、従来よりも大出力、小型軽量化されたモーターシステムの実現を可能にし、航空機だけでなく今後さらなる高出力モーターが必要となる大型自動車、電動産業機器への応用が期待されています。

モーター  
内部拡大



## 医薬事業

TOPIC

### Speciality, Biosimilar & Generic plus IVRファーマへ

日本化薬は、がん治療や関節リウマチ治療の主要な役割を果たしている医薬品のバイオシミラーを最優先課題として早期の事業化を実現することにより、患者様やそのご家族、医療関係者の皆さまに一層貢献することを目指していきます。

バイオシミラーを幅広く提供することで、「いつでも、どこでも、誰でも」より良い医療、質の高い医療を等しく受けられる社会を実現したいと考えています。

2010年に第3の柱として進出を果たしたIVR※(Interventional Radiology)分野につ

いては、今後も対象臓器や疾患、患者様の状態に合わせた塞栓材ラインアップのさらなる充実を目指しており、がん領域を中心に患者様の身体的負担が少ないIVR治療の提供によって社会に貢献していきます。

※【IVR】「血管内治療」、「血管内手術」とも言われ、エックス線透視や超音波像、CTを見ながら体内に細い管(カテーテルや針)を入れて病気を治す治療法です。



日本化薬  
医療関係者  
向け情報サイト  
「MINK Web」



## セイフティシステムズ事業

TOPIC

### NCAP (安全基準の評価) 中での安全部品事業

自動車事故の際、乗員の命を守る自動車を選びたいというニーズに答えるため、公的な自動車衝突テストが世界の各地域で実施されています。それはNCAP (New Car Assessment Program) と呼ばれ、日本では自動車アセスメント (JNCAP) と呼ばれ、乗員保護性能評価、ブレーキ性能試験に加え、歩行者保護性能評価なども加わりました。市販車の安全性評価試験を行い、その結果を公表することで、ユーザーが安全な自動車を選択できる環境をつくり、安全な車の普及を図る事を目的としています。米国では1979年からUNCAPとして実施されており、最近では東南アジア諸国連合において2011年12月にACEAN NCAPとして開始されました。その他欧州、豪州、中国、韓国でも実施さ

れています。自動車事故の際、乗員の安全を守るにはいくつかの要素がありますが、自動車用エアバッグ、シートベルトはその中でも重要な位置を占めています。

このような環境の中に、日本化薬は従来から培ってきた火薬の技術を応用し、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用および歩行者頭部保護を目的としたポップアップフード用マイクロガスジェネレータをグローバルに開発・製造・販売し、世界中の自動車の乗員の安全に貢献しています。



火薬の技術により作動するエアバッグ



## アグロ事業

TOPIC

### 特徴ある農薬で稲を守ります (スクミハンター)

南米をルーツとするスクミリングガイは、西日本を中心として日本各地に広がり、水稻の苗を食べて大きな被害を与えます。

アグロ事業部では、他の害虫防除にも使用されている農薬原体「チオシクラム」を、製剤技術

により徐々に放出する粒剤に

して残効性を持たせること

によりスクミリングガイが

死滅するわけではなく、効

果がある間は活動が抑

えられ、そしゃくしたり

する能力を低下させるため水田での稲に対する被害を安定的に防止することができます。

また、スクミリングガイは水稻の苗が柔らかい間は水稻を食べますが、苗が大きくなり硬くなると雑草など他の植物を食べようになるため、苗が硬くなるまでの期間、薬剤の効果を持続させることにより苗への被害を抑えながら、その後の除草にも期待が持てるようになっています。

農産物を病虫害・雑草から守り、生産者の労力を軽減する農薬、食物生産を助けるこれらの資材にも日本化薬グループの技術が生きています。



スクミリングガイ

# 社会的責任を果たすCSR活動

## お客様への取り組み

日本化薬グループでは、  
お客様に最良の製品を提供するために、  
製品やサービスの安全性・信頼性に配慮しています。

アクションプラン  
・信頼性を確保する

評価

2012年度の目標  
・「日本化薬と医療機関などとの  
関係の透明性に関する指針」  
をウェブサイトで公開  
・農薬安全使用のために  
現地指導を継続実施



## 医療品情報センターと信頼性確保

医薬品情報センターでは、当社製品に関わるさまざまなお問い合わせを、医師・薬剤師や特約店などの医療関係の皆さま、そして患者の皆さまや一般の方からいただいています。

日本化薬が提供する医薬品・医療機器がお客様にとって「最良の製品」となるよう、医薬品情報センターでは「適正使用情報」をお伝えすることをモットーとして、一つひとつのお問い合わせに対し的確にそして丁寧に回答することを心がけています。私どもの回答がお客様のご期待にお応えしているか、医療関係の皆さまへのアンケートを行い、改良・改善を実施しています。また、医療施設へ訪問する医薬情報担当者(MR)と連携し、患者の皆さまのお役にたてる情報をご提供するよう努めるとともに、お客様からのご要望やご意見を社内の各担当部門に報告・提案していきます。

医薬品情報センターでは、「すべては適正使用の推進と顧客満足の向上のために」をスローガンとし、より良い医療に貢献してまいります。

**76**製品  
全製品に対応  
(2013年8月現在)



医薬品情報センター

## 農薬の正しい使用方法の指導

アグロ事業部は、「クロルピクリン」を有効成分とする「カヤクローールピクリン」、「ドジョウピクリン」、「クロピクフロア」などのクロルピクリン剤を販売しています。

この製品は、土壌に生息し農作物の生育に有害な病原菌や害虫を防除する土壌くん蒸剤として、現代日本農業に不可欠な農薬です。そして、効果が高かつ作物に残留しないことから販売開始から半世紀以上経ちますが、未だに広く使用されています。

しかし、クロルピクリン製品が気化したガスは、吸入毒性が高く、目や皮膚への刺激性も高いため、使用方法を間違えると目やのどなどの痛みだけでなく、命に関わる事故に繋がる可能性があるため細心の注意を払って取り扱わなければなりません。

そこで、クロルピクリン剤の説明会を開催し、お客様には効果だけでなく、安全かつ適切に使用方法を説明・



「クロピクフロア」の現地講習会

指導させていただいています。たとえば、「クロピクフロア」の現地講習会は、使用される地域を中心に毎年実施しています。

## お取引先・投資家への取り組み

### 2012 年度の目標

- ・ 原材料および間接材のグリーン調達実績の集計を実施
- ・ 適切な決算説明会・取材対応・情報開示により株主の信頼を獲得する

評価



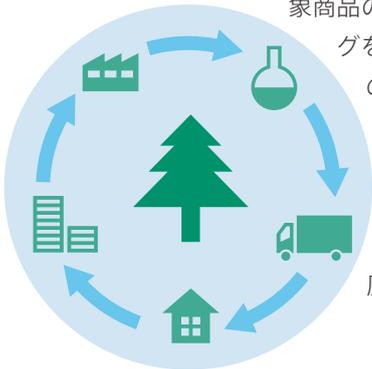
## グリーン調達から CSR 調達へ

原材料調達については、環境負荷低減に該当する品目の選定を進め、購入した数量、金額などの情報を把握するシステムを整備しています。また、間接材購買においては、電子購買システムを介してエコマーク商品やグリーン購入法対象商品の選定を容易にする電子カタログを掲載することにより、間接材の購入を環境に配慮した商品の購入に誘導し、これらの商品の購入を促すよう取り組んでいます。

現在、CSR の観点から、原材料購買に関する対外的な

指針を提示し、お取引先と共同で CSR 活動を推進する体制の整備を検討しています。

当社は、国内外に多数の製造拠点を有し、多角的な事業を行っています。このような状況に応じて、当社が果たすべき社会的責任、環境責任はグローバルに拡大していると認識しています。企業は経済的責任だけでなく社会の構成員として負うべき社会的責任、環境責任を意識した存在であるべきと考えます。これら3つの観点から、お取引先各社との協働により、お客様ひいては当社の製品を用いて製造される商品を使用される消費者の皆さまに対する安心・安全を提供できるものと考えています。



## 投資家の皆さまとのコミュニケーション活動

### ■決算説明会の実施

機関投資家や証券アナリストを対象とした決算説明会を、第2四半期決算および年度決算後に開催しています。日本化薬からは社長をはじめ全役員が出席し、決算や業績見通し、今後の取り組み方針を説明しています。



決算説明会

### ■個別ミーティングの実施

機関投資家や証券アナリストと直接コミュニケーションを取る個別ミーティングを実施しています。

### ■工場見学会の実施

日本化薬の事業活動に対する理解を深めていただくため、機関投資家や証券アナリストを対象とした工場見学会や研究開発説明会を毎年実施しています。

109回

投資家訪問回数

(2012年度は10ヵ月の短縮決算)

# 社会的責任を果たすCSR活動

## 従業員への取り組み

企業の主体は“人”。日本化薬グループは、従業員が安心して働ける環境の中で一人ひとりが持てる能力を発揮し、仕事を通じて社会に貢献することで働きがいを感じることが大切だと考えています。

### アクションプラン

・安全な職場環境を実現する

### 評価

### 2012年度の目標

- ・安全性のレベル向上を目的とし、火薬安全教育を実施する
- ・メンタルヘルス研修実施



## 火薬安全維持活動

セイフティシステムズ事業本部は、自動車用安全部品であるエアバッグインフレーター、マイクロガスジェネレーターおよびこれらの点火具であるスクイブを製造しています。どの製品にも取り扱いに十分な注意を要する火薬類を使用しています。

セイフティシステムズ事業本部では、所属する従業員を対象に、2009年から「火薬保安管理技術」の講義を開始しました。火薬の安全確保は、①発火(爆発)の抑制、②伝火(伝爆)の制御、③被害の最小化の

3段階を考え、検討し、対策をたてることを基本とします。火薬保安管理技術は、セイフティシステムズ事業本部全員の共通の知識となりましたが、現在も定期的に講義を継続し、全員の安全意識と知識の向上に努めています。

事業本部全員が火薬保安管理技術の一般知識を習得した次のステップとして、特に安全管理が必要な製造現場では「管理職、係長・主任クラス、現場責任者、作業員」と階層別の火薬取り扱いの安全教育を進めています。これは、各階層の人が自分の知識や考え方を自分の言葉で、次の階層の人を教育することが大切であると考えたからです。まさに事業本部に属する全員の安全意識の向上を図ろうというのが、火薬安全管理技術維持活動です。

安全教育参加者のべ数

129人

## メンタルヘルスへの取り組み

メンタルヘルスケアでは従業員全員が、正しい知識・認識を持ち、メンタル不調の早期発見・予防に努めることが大切です。特に「メンタル不調を予防することを第一に考える」取り組みを重点に全従業員対象に継続的に実施しています。

社外よりEAP<sup>\*1</sup>の講師を招き2005年度に第1回目の研修を開催し全従業員が受講しました。2006年度からは3年を1クールとし継続的に全従業員が1クール内に一度は受講できるよう全国各地で年に数十回実施し、2011年度までに2クールの研修を終了しています。2012年度からは3ク

ル目をスタートしました。管理者研修は「早期発見のために兆候と具体的な対応を考える」、一般職研修は「ストレス耐性向上研修」で、受講生からは「正しい知識が得られた。予防には何が重要であるかについて認識できた。」など好評でした。また、「カウンセラーに気軽に相談できる」気運が高まり、カウンセラー相談件数が増加する傾向が見られ、着実にメンタル不調の未然防止に繋がるものと考えています。

一方、メンタル不調によって休養を余儀なくされた方の職場復帰については、「復職プログラム」を策定し、職場の上司(会社)、産業医、EAPが三位一体となって、再発予防を念頭においたスムーズな職場復帰を支援する体制を整えています。

メンタルヘルス受講者数

1,110人

2012年度



メンタルヘルス研修風景

<sup>\*1</sup>【EAP】(Employee Assistance Program)従業員支援プログラム。

## 社会への取り組み

日本化薬グループは、ステークホルダーのひとつである地域の皆さまとコミュニケーション活動を活発に行い地域に根付いた会社でありたいと願っています。

### アクションプラン

・社会の健康に貢献する

### 評価



### 2012年度の目標

・ピンクリボン活動の継続  
・「あすなるの家」の継続的な管理運営

## ピンクリボン活動

当社では、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン活動を2004年度から独自に開始し、2012年度で9年目となりました。

活動内容は、乳がん関連のウェブサイトの運営・社員の「ピンクリボンバッヂ」の着用・「自動車用ステッカー」の貼付・啓発グッズの配布などを行っています。ピンクリボン啓発グッズの配布は本社最寄り駅で例年行ってきましたが、2012年度は全国事業場（(株)日本化薬福山・厚狭工場・高崎工場・姫路工場・東京事業所等）の最寄り駅周辺で配布し、乳がん検診の大切さを呼びかけました。



ピンクリボン活動年数

9年目

## VOICE

ピンクリボン活動街頭キャンペーンに参加して  
医薬開発本部 葛西 彩香

初めは少し緊張しましたが、ピンクリボン活動を通じて地域の方々の温かい笑顔に触れ合うことができ、とても新鮮で有意義な時間を過ごせました。この活動の中で、「ピンクリボン活動って何?」「乳がん検診ってそんなに大事なの?」……そんな声をたくさん耳にしました。これを機に、地域の方々に乳がん検診について少しでも意識してもらえたらと思っています。



## 難病とたたかう子どもと家族の滞在施設「あすなるの家」

「難病とたたかう子どもと家族の手助けを」を合言葉に、創立80周年の記念事業の一環として、埼玉県さいたま市に介護者用滞在施設「あすなるの家」を開設し運営しています。この施設では、利用者のプライバシーを守るとともに、闘病生活を送る子どもを持つ親同士が交流を図ることができ、介護者の方の精神的負担を軽減する手助けとなるよう工夫しています。



153 家族  
年間\*利用家族数  
\*2012年1月1日～12月31日

⇒ウェブサイトに、詳細を掲載しています。  
<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/social/asunaro.html>  
連絡先電話番号:048-658-5861

## VOICE

「あすなるの家」今日この頃  
ハウスマネージャー 安井 秀夫

「あすなるの家」も設立後14年経ち、ハウスマネージャーも私で3代目。10室ある個室の利用稼働率が80%を超える月もあり、忙しい中何かと流されそうになりがちです。このような中であっても、ご利用者との日頃の会話やアンケートなどからご希望、ご要望を引き出し、安心して滞在いただくために改善へと繋げるよう心がけています。一例として、洗濯機・乾燥機の使用状況を一目でわかるように利用部屋ナンバーを各機器に貼り付けるマグネット板の設置などを進めています。すべてのご希望に応えることは難しいですが、引き続きできる限りのことをしていきたいと思っています。



# 環境責任を果たすCSR活動

## 環境安全衛生品質マネジメント

日本化薬グループは、「環境・安全・品質」をあらゆる経営課題に優先し、グループ全体で環境負荷低減に取り組んでいます。

より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/2013/environment/>



### アクションプラン

・安全な職場環境を実現する

### 2012年度の目標

- ・重大事故災害 0 件、休業災害 0 件
- ・無傷害事故 0 件

評価



## 「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」

CSR理念とレスポンシブル・ケア精神<sup>※1</sup>のもと、日本化薬グループは環境保全・安全衛生の確保および品質保証の維持・向上に努めるため、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」を制定し、組織的な活動を行っています。

※1【レスポンシブル・ケア】(Responsible Care)

化学物質を製造または扱う企業が化学物質の開発、生産、販売、消費から廃棄に至るまでのすべてのプロセスにおいて、自ら積極的に「環境」「安全」「衛生」面に配慮した対策を行う活動。1985年にカナダで誕生した後、世界に拡がり現在では50カ国で実施されています。

## 全社における環境安全衛生・品質管理体制

重大事故災害・  
休業災害、無傷害事故

0件

日本化薬グループでは、社長を委員長とする環境・安全・品質保証経営委員会を中心とした管理体制により、環境安全衛生の確保、品質保証の維持と向上のために組織的な活動として海外4工場を含め中央環境安全・品質(統合)診断などを行っています。

日本化薬グループでは、優れた品質の製品・サービスを環境に配慮しながら開発・提供し、お客様に信頼され満足いただくために、環境管理の国際規格であるISO14001および品質保証の国際規格であるISO9001の取得を進めます。

環境管理マネジメントシステムISO14001については1998年から認証取得を開始し、日本化薬6工場で認証を取得後、海外を含むグループ会社も認証取得を進めています。

また品質保証マネジメントシステムISO9001の認証取得は1995年から工場を中心に開始し、その後は事業部、研究開発部門、海外を含むグループ会社で取得を進めています。

**環境と安全と品質に関する私たちの宣言**

平成7年11月7日 制定  
平成22年9月1日 改訂

私たちは、生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える製品と技術で人類に貢献しつづけることを目指し、努力を続けています。

私たちの活動は、人々の健康や安全、或いは財産をおびやかしたり、環境を破壊することがあってはなりません。

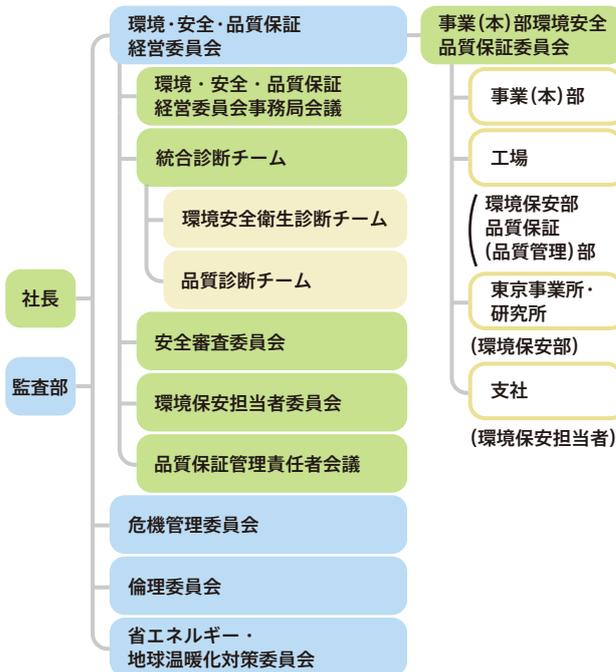
私たちは、「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」をKAYAKU spiritとして日本化薬グループで取り組んでおり、次の基本方針によって行動します。

**基本方針**

1. 私たちは、製品の研究・開発から生産・販売を経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体にわたり、環境・健康・安全に与える影響を評価し、十分な配慮を行います。
2. 私たちは、品質に責任を持ち、お客様が満足される製品の開発と改善に努めます。
3. 私たちは、環境保全・安全衛生・製品品質に関する意識を高め、無公害・無事故・無災害および製品安全の達成に努めます。
4. 私たちは、製品の安全な使用と取り扱いについての必要な情報を、お客様に積極的に提供します。
5. 私たちは、環境保全に寄与するため、省資源・省エネルギー・地球温暖化対策をなお一層推進します。
6. 私たちは、環境保全に対しても積極的に技術の開発を行い、その応用に努めます。
7. 私たちは、製品や廃棄に関して、市民の方々や行政当局の正しい理解が得られるようコミュニケーションを深めることに努めます。

平成22年9月1日  
日本化薬株式会社 代表取締役社長  
**萬代 晃**

### ■環境・安全衛生・品質組織体制



## 化学物質の管理

### アクションプラン

- ・化学物質に対する規制を順守する

### 2012年度の目標

- ・化学物質規制に関する教育プログラムの充実  
化学薬品コンプライアンスのボトムアップ
- ・MSDgen運用の効率化を推進  
上市品および開発品 SDSの作成

評価



## 化学物質の管理

世界的な化学物質管理強化の動きの中で、国内外の化学薬品関連法令を順守すること、お客様からの製品含有化学物質に関するご要望に的確に対応していくことが、ますます重要になってきています。

こうした流れを受けて、機能化学薬品事業本部では2012年6月に化学物質管理室を設置し社内管理体制を整備しました。化学物質管理室では各国法規制の最新情報入手並びに関係部門への対応指示の他、化学薬品関連法令全般の教育実施により、化学薬品コンプライアンスの維持・向上に努めています。

また、機能化学薬品研究所内に化学物質管理室の駐在を配置し、製品の安全性、法適合性確認を開発段階から徹底する

ようにしました。

2013年度も引き続き欧州のREACH規則<sup>※1</sup>やCLP規則<sup>※2</sup>、中国、韓国における法令改正等に確実に対応していきます。

- ※1【REACH規則】  
(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)  
EUにおける化学薬品の登録・評価・認可および制限に関する規則。
- ※2【CLP規則】  
(Regulation on Classification, Labelling and Packaging of substances and mixtures)  
GHSをベースとしたEUにおける化学薬品の分類、表示、包装に関する規則。

## GHSへの対応

各国のGHS<sup>※3</sup>導入に伴い、現地法令・規格に適合したSDS<sup>※4</sup>を現地語で提供することが求められるようになってきました。機能化学薬品事業本部では豊富な対訳、各国法規データ、物性・毒性データを装備したSDS作成システム(MSDgen)を導入し、現地法令・規格に適合したSDSを提供しています。2013年のシステムアップデートでは米国版GHSに対応し、すでに対応済みの日欧、アジア諸国と合わせて一段の充実を図りました。

また、SDSおよびその提供履歴についてもデータベースを利用して管理を行い、常に最新の情報を提供することを心がけています。

※3【GHS】  
(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)  
化学薬品の分類および表示に関する世界調和システム。

※4【SDS】  
(Safety Data Sheet)  
化学物質安全性データシート。



GHSラベルの一例

# 環境責任を果たすCSR活動

## エネルギー・マテリアル・バランス

2020年度までの中期環境目標達成に向けた取り組みを実施しています。2012年度は2012年4月1日から2013年3月31日を対象期間としています。

### アクションプラン

- ・ 化学物質排出量の削減
- ・ 廃棄物の発生量の抑制
- ・ 地球温暖化を防止

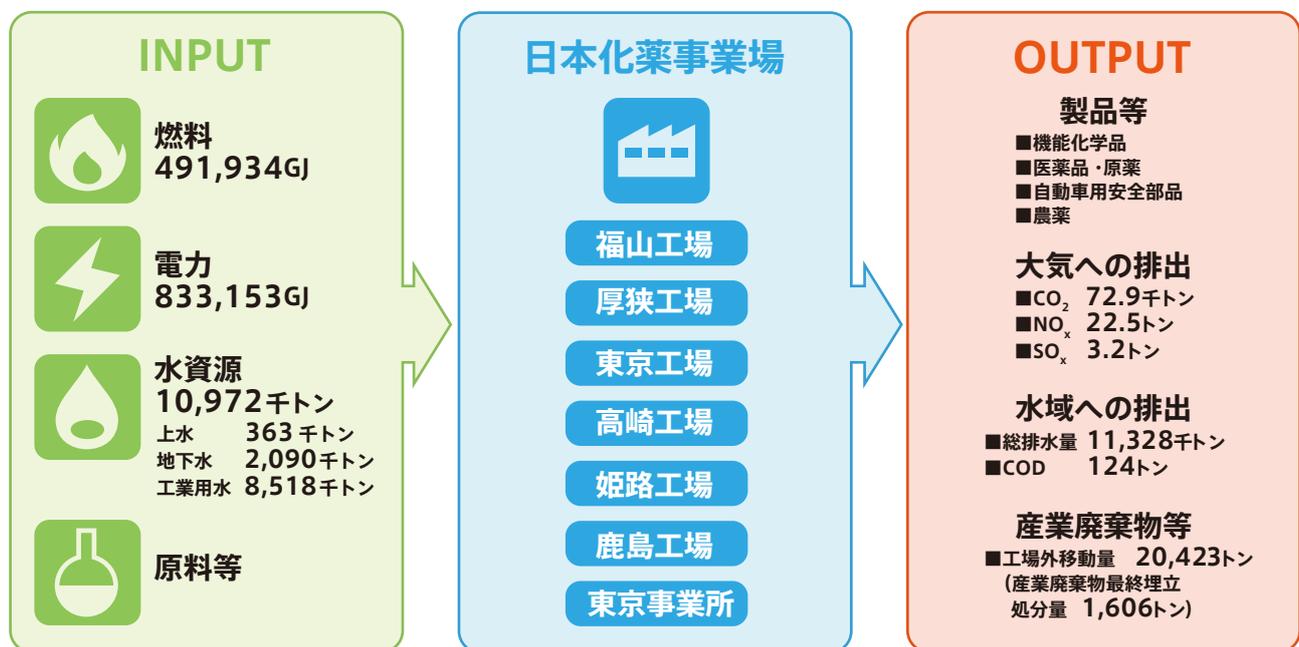
評価



### 2012年度の目標

- ・ 中期環境マスタープランの実現

## 事業活動と環境負荷の全体像



## 中期環境マスタープラン(2011~2020年度)

分野	項目	2020年度目標値	2012年度	内容
化学物質 排出量削減	VOC <sup>※1</sup> 排出量	45 トン以下	81.4 トン	前年度と比較して 11.1% 減となりました。
	COD <sup>※2</sup> 排出量	180 トン以下	124 トン	前年度と同等となりました。
地球温暖化防止	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 <sup>※3</sup> (生産部門+業務部門)	15%以上削減	72.9 千トン	CO <sub>2</sub> 排出量は前年度よりも 3.8% 減となりました。 1990 年度比では 24.2% 削減となっています。
廃棄物削減	廃棄物発生量	30,000トン以下	20,423 トン	前年度と比較して 8.4% 減となりました。
	リサイクル率	70%以上	61.8%	前年度と比較して 1.7% 減となりました。リサイクル率を上げる 努力はしていますが、2012 年度は、有機溶剤の使用量そのものを 減らしてきており、リサイクル率が下がりました。
	ゼロエミッション率 <sup>※4</sup>	3%以下	7.9%	埋立廃棄物を減らす努力を続けています。

※1【VOC】 Volatile Organic Compounds.揮発性有機化学物質。ただし、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含みます。

※2【COD】 Chemical Oxygen Demand. 化学的酸素要求量。排水中の被酸化性物質を一定の条件下で酸化剤により酸化し、そのときに使用した酸化剤の使用量から、被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量を換算した指標のこと。CODの値が高いということは、それだけ水中の酸素を消費する有機化学物質等が多く含まれており、汚染度が高いことを示します。

※3【エネルギー起源CO<sub>2</sub> 排出量】 1990 年度(96.2 千トン)を基準としています。

※4【ゼロエミッション率】 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。

# グループ会社の取り組み

日本化薬グループは世界各地でCSR活動をしています。

## 株式会社ニッカファインテクノ

国名: 日本 住所: 東京都千代田区内神田 2-2-6 田中ビル  
<http://www.nkft.co.jp/>

### ■ KAYAKU spirit 浸透の取り組み

**KAYAKU spirit** を全社員へ意識付ける取り組みとして、毎月1回、本社(東京)・大阪・北陸(福井)の各事業所の営業会議や部内会議等の中で、『日本化薬グループ行動憲章・行動基準』の輪読を中心にコンプライアンス研修を実施しています。行動憲章・行動基準を常に意識し、関連法令の順守や企業倫理および自己責任に基づいた行動によって社会的責任を履行することの徹底を図っています。また、この研修の中で「**KAYAKU spirit**」

の冊子を1ページずつ取り上げ、企業ビジョン・CSR経営・グループ行動指針についての理解を深めています。

「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を商社機能のグループ会社として「日本化薬(株)とお客様を結び架け橋となる」ことで実現し、(株)ニッカファインテクノを良い会社・強い会社にしていきたいと思っております。



日本

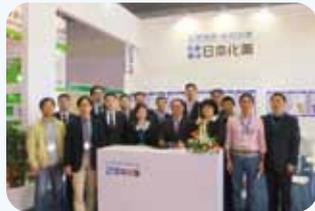
## 上海化耀国際貿易有限公司

国名: 中国 住所: 上海市長寧区凱旋路369号龍之夢雅仕大廈2009室  
<http://www.kayaku-sha.com/>

### ■ 染料や顔料の環境対応および省エネルギーの提案

上海化耀国際貿易有限公司はその前身の無錫先進化薬化工有限公司時代より、中国市場を中心に繊維用・製紙用染料などの販売に携わってきました。その中でエネルギーコスト削減によるコストダウンを目的として、ポリエステル/綿に代表されるような複合素材繊維の一浴染色方法をお客様に提案しています。

一般的に複合素材繊維は、素材毎にそれぞれの染料を使用し、別々に染色する必要があります。しかし、一浴染色方法では、同時に



染色染料を使用することで、染色の時間を約半分にできさらにエネルギーコストも削減することが可能となります。

本テーマは長年中国市場で紹介してまいりましたが、2012年および2013年4月に上海で開催されました世界最大の染料展示会においてあらためて発表し、少なからず反響をいただいております。

今後もこのような環境に優しい染色方法とその染料を提案することで、環境問題の解決に向けた社会的な責任を果たしてまいります。



中国

## INDET SAFETY SYSTEMS a.s.

国名: チェコ 住所: Bobrky 462, 755 01 Vsetin, Czech Republic  
<http://www.iss-cz.com/>

### ■ ヤブロンカ村消防署への空気呼吸器寄贈

INDET SAFETY SYSTEMS a.s. (ISS) は2013年3月26日にヤブロンカ村の消防署へ空気呼吸器を4セット寄付しました。ISSはヤブロンカ村に第2、3工場を保有しており、自動車用安全部品を生産しています。

消防署が従来保有していた空気呼吸器は古く、性能が低いため消防士の活動を制約していました。空気呼吸器は火災時の緊急避難、消火、救助活動、マンホールやタンク内での作業など低酸素環境で使用さ

れます。この空気呼吸器のマスクは消防士のヘルメットに固定でき、ボンベから空気がマスクに供給されます。

消防署から「厳しい経済状況が続く中、寄付をしていただいたことを感謝しております。おかげで最新の器具を導入することができました。」という感謝の言葉をいただきました。ISSは今後も地域に対して何かできるのかを考え、社会的責任を果たしてまいります。



チェコ

# 冊子とウェブサイトの対照表

ウェブサイトと冊子の関係を一覧にしました。より詳しい情報をご覧になりたい方は

<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/> へアクセスください。

章タイトル	項目	冊子掲載ページ	ウェブサイト
編集方針	編集方針	02	
社長メッセージ	社長メッセージ	03	○
基盤となるCSR活動	企業ビジョンとCSR活動	08	○
	株式会社ニッカファインテクノの取り組み	21	○
	CSRアクションプラン	06-07	○
特集	明日につなげる運動発表大会	04-05	○
コーポレート・ガバナンス	日本化薬グループのガバナンス体制および内部統制体制	09	○
	施策の実施状況	—	○
	日本化薬グループのBCPへの取り組み	—	○
コンプライアンス	コンプライアンスの浸透と徹底	09	○
	コンプライアンス推進活動	—	○
経済的責任を果たすCSR活動	豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在の製品および未来の技術や製品	10-11	○
	機能化学事業・医薬事業・セイフティシステムズ事業・アグロ事業・研究開発	12-13	○
社会的責任を果たすCSR活動	<b>お客様への取り組み</b>		
	医薬品情報センターと信頼性確保	14	○
	農業の正しい使用方法の指導	14	○
	<b>お取引先・投資家への取り組み</b>		
	グリーン調達からCSR調達へ	15	○
	日本化薬と医療機関等との関係における透明性に関する指針	—	○
	投資家の皆さまとのコミュニケーション活動	15	○
	<b>社会への取り組み</b>		
	ピンクリボン活動	17	○
	難病とたたかう子どもと家族の滞在施設「あすなるの家」	17	○
	LRIへの支援	—	○
	「夏休み子ども化学実験ショー2012」に参加	—	○
	INDET SAFETY SYSTEMS a.s.の取り組み	21	○
	地域との関わり	—	○
	「納涼花火大会」で地域と交流 姫路工場	—	○
	<b>従業員への取り組み</b>		
	研修プログラム	—	○
	火薬安全維持活動	16	○
	ワーク・ライフ・バランスのための制度の拡充	—	○
	特別有給休暇制度の充実	—	○
	日本化薬シニアパートナー制度	—	○
	メンタルヘルスへの取り組み	16	○
	次世代育成支援対策推進法の一般事業主行動計画	—	○
第30回全社研究発表会	—	○	
発明に関する表彰制度	—	○	
環境責任を果たすCSR活動	<b>環境安全衛生品質マネジメントシステム</b>		
	環境と安全と品質に関する私たちの宣言	18	○
	全社における環境安全衛生・品質管理体制	18	○
	事業場における管理体制	—	○
	品質保証システム・環境管理システムの認証取得状況およびGMPの認可状況	—	○
	<b>安全衛生および品質保証に対する取り組み</b>		
	安全衛生の取り組みおよび実績	—	○
	品質保証機能の向上への取り組み	—	○
	労働安全衛生・品質保証の取り組み	—	○
	事故災害への対応	—	○
	化学物質の管理	19	○
	GHSへの対応	19	○
	<b>環境負荷低減の取り組み</b>		
	エネルギー・マテリアル・バランス	20	○
	中期環境マスタープラン（2011～2020年度）	20	○
	環境負荷低減の取り組み結果	—	○
	エネルギー低消費型企業を目指して	—	○
環境会計	—	○	
廃棄物処理施設の維持管理状況	—	○	
CSRレポートダウンロード	CSRレポートダウンロード	—	○
第三者意見	第三者意見	—	○

# グループ概要 (2013年3月末現在)

## ヨーロッパ

Dejima Tech B.V.  
Dejima Optical Films B.V.  
Euro Nippon Kayaku GmbH  
INDET SAFETY SYSTEMS a.s.

## 中国

無錫宝来光学科技有限公司  
Polatechno(Hong Kong) Co.,Ltd.  
上海恩克福貿易有限公司  
無錫先進化学化工有限公司  
化学化工(無錫)有限公司  
招遠先進化学化工有限公司  
上海化耀國際貿易有限公司  
化学(湖州)安全器材有限公司  
化学(上海)管理有限公司

## 韓国

Nippon Kayaku Korea Co.,Ltd.

## 台湾

台湾日化股份有限公司

## マレーシア

Kayaku Safety Systems Malaysia Sdn.Bhd.  
(2012年12月28日設立)

## 日本

株式会社ボラテクノ  
株式会社日本化学福山  
株式会社日本化学東京  
株式会社ニッカファインテクノ  
日本化学フードテクノ株式会社  
株式会社TDサポート  
日本化学メディカルケア株式会社  
株式会社ナック  
株式会社西港自動車学校  
有限会社YMKサービス  
和光都市開発株式会社  
株式会社ニコス  
株式会社日本人材開発医学研究所  
株式会社沖浦ゴルフセンター  
厚和産業株式会社  
群南産業株式会社  
**持分法適用会社**  
化学アクゾ株式会社  
カヤク・ジャパン株式会社  
三光化学工業株式会社

## アメリカ

MicroChem Corp.  
Moxtek, Inc.  
NIPPON KAYAKU AMERICA, INC.  
THE GILMORE ROAD PROPERTY, LLC  
(2013年3月31日設立)

## メキシコ

Kayaku Safety Systems de Mexico,  
S.A. de C.V.

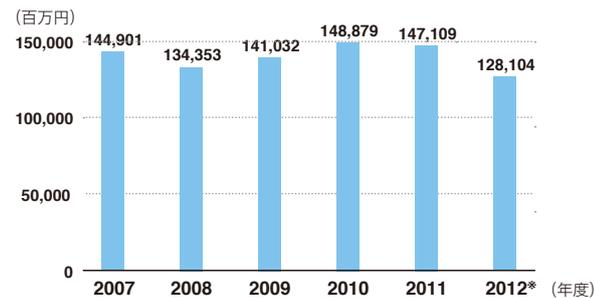
## ■会社概要

**会社名** 日本化学株式会社  
**設立** 1916年(大正5年)6月5日  
**資本金** 149億3千2百万円  
**本社所在地** 東京都千代田区富士見1-11-2  
**電話番号** 03-3237-5111(代)  
**従業員数** 単体1,806名 連結4,619名  
**グループ会社** 子会社37社  
持分法適用会社3社  
**決算期** 3月31日

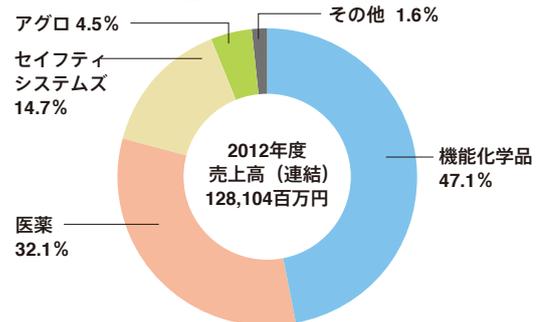
## ■主な事業内容

**機能化学品** 機能性材料、デジタル印刷材料、色材、触媒  
**医薬** 医療用医薬品、医療機器、医薬原薬・中間体、  
診断薬、食品品質保持剤、特定保健用食品、  
介護事業  
**セイフティシステムズ** 自動車用安全部品  
**その他** アグロ、不動産賃貸

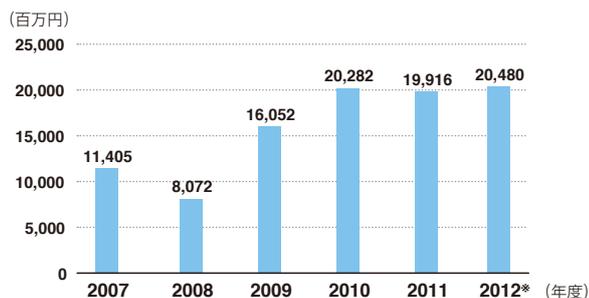
## ■売上高(連結)



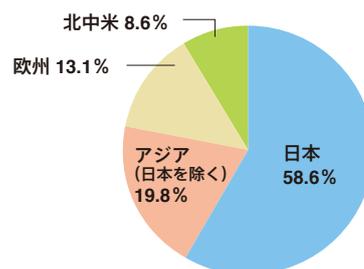
## ■事業別売上比率(連結)



## ■経常利益(連結)



## ■地域別従業員比率



※2012年8月30日開催の株主総会にて決算期を5月31日から3月31日に変更しました。  
当該変更に伴い、2012年度は日本化学および5月決算であった連結対象会社は  
2012年6月から2013年3月の10ヵ月間を、3月決算の連結対象会社は2012年4月から  
2013年3月の12ヵ月間を連結対象期間としています。

※従業員数は就業人員であり、臨時従業員を含んでいません。  
※対象は日本化学本体と連結子会社26社です。

# 日本化薬株式会社

〒102-8172

東京都千代田区富士見1-11-2

経営戦略本部 経営企画部

TEL : 03-3237-5043 FAX : 03-3237-5085

<http://www.nipponkayaku.co.jp>

2013年10月発行



この印刷物は環境に配慮し、FSC™認証林および管理された森林からの製品である「FSC™認証紙」、石油系溶剤を100%植物油成分に置き換えたVOCフリーの印刷インキ、印刷工程で有害な廃液を排出しない「水なし印刷方式」を採用しています。